

## 講演「歴史的転換期と21世紀日本の政治」

元内閣総理大臣 中曽根 康弘 氏 (03-1)

外では「ロン・ヤス」の日米親密関係を築き、内では国鉄、電電公社の民営化をやり遂げた元総理の中曽根さん、今の小泉内閣をどう見ているのか。自民党政治に「非連続の改革」をやった点は高く評価しながらも、「政党、議会を軽視するのは独裁的超然内閣。太平洋戦争直前の日本と似ていて危険だ」と警鐘を鳴らします。さすがは大勲位、含蓄のあるハイレベルな講演です。

- \* 冷戦崩壊以降 10 余年、散乱状態に陥っているのが今の世界だと思う。例えばイラクに対し強い構えを見せている米国、必ずしも足元がしっかりしているとは言えない。非常に不安定な状況にあると思う。この時期、我々が判断するよすがとなるのは歴史だ。そこから重要なポイントを抉り出して、新しい方向を見つけ出すことだ。
- \* 小泉内閣ができて 2 年、その実績はどうか。自民党政治に非連続の改革を成し遂げた点を、私は高く評価している。彼は国民の圧倒的な支持を得、私も総裁選で亀井君を辞退させ、小泉支持に動いた甲斐があったというもの。が、最近、何か危なっかしさを感じているのもまた事実。改革のやり方が、どうも地に足がついていない気がする。
- \* 今の政治は「産地直送型」になったと思う。即ち、議会や政党の仲介なしに国民が直接総裁を選び、総理にモノを言う。総理もまた国民の顔色を見ながら政治を進めて行く…まさに「大統領的首相」だ。その面は良い。が、憲法で議院内閣制が決まっている以上、議院内閣の総理でもある。政党や議会を無視して政治は成り立たない。
- \* 産地直送型政治は無党派層を拡大させる。小泉さんもそれに乗ったわけだが、彼の運の強さには驚嘆する。支持率が落ちだした時、決まって何かが起こるのだ。9.11 テロ、北朝鮮問題、民主党の分裂…この最大野党の衰退は総理の権力を強大にさせる。野党が接近していると、総理はやり辛いのだ。党内でも反乱が起こし難くなる。
- \* 現在の政治の大きい問題は経済政策だ。竹中さんに丸投げして本人は奥の院へ入ってしまっている。銀行征伐も大事だろうが、カネを借りている産業や企業の見通しをつけてやらねば政治とは言えない。国のエネルギーを作るのは銀行ではない。産業、企業、労働者だ。竹中式一次方程式はダメ、大切なのは銀行と産業の連立方程式なのだ。
- \* 銀行にしる企業にしる「こちらは生かす。これは潰す」という判断が求められる。国会に議席を持たない竹中さん、一人ではやれっこない。生きられるものは全て生かしていく、この精神が政治家には不可欠。「生かせ命！」と私が言っている所以だ。政治家ではない竹中さんはともあれ、陣頭指揮すべき総理が、この点に関心が薄いのだ。
- \* 最終案が 5 対 2 に分かれて話題を撒いた道路公団問題。5 人は小泉側、2 人が党側と言える。党が反対すれば法律は通らない。いずれ党の要人を内閣に取り込んで、協力させねばならなくなるだろう。私の場合、電電公社民営化の時に抵抗派の頭目、金丸さんを幹事長に据え成功した。小泉さんの場合、どう処理するのか。腕の見せ所だ。
- \* 小泉超然内閣のやり方を見ていると、昭和 7 年、犬養内閣のあと官僚（軍人）内閣が続き、政党や民主主義が壊滅して戦争に突入したことを思い出す。政党を無視し、国民に迎合する“産地直送内閣”はそういう危険性を孕んでいる。この際、政党も政治家もしっかりしないとイケない。その点で英国流議院内閣制を見習うべきだと思う。
- \* 今、私が思っているのは戦略国家体制を早く作るということ。外国は皆、戦略でやっている。日本にだけこれがない。例えば官房長官の下に情報調査局を作り、各省庁の諜報をそこで一元的にまとめ、戦略を練って国家の方向付けをやる。幸い来年から衛星が飛ぶ。北朝鮮の動きが日本でも掴めるわけだ。この際、ぜひ実現させるべきだ。
- \* 政治家の養成も喫緊の急務だ。今の 50 代は大学騒動で基礎的な哲学、思弁に欠ける。目先の処理はできるが、日本の将来についてどうこうするという点に弱い。それには歴史観と、人間の限界を認識することから出てくる宗教性（祈り）が不可欠。訓育養成するなかでカリスマ性があり、人間としての重みのある政治家が育つのではないか。